

たくさんの池田町民のみなさんの善意に支えられ、

5/19
～
5/21

おながわ 大震災被災地・女川町への 支援行動を無事終えました。

みなさんからの
支援物資と義援
金、ありがとうございました

私たち「被災地支援池田町民ネットワーク」（矢口稔代表）は、5月19日から21日まで、大震災の被災地・宮城県女川町へ行き、支援活動を行いました。町民のみなさんから寄せられた大量の物資や、義援金で購入した野菜や日用品などを2台のトラックに満載、女川町の被災者のみなさんに届けるとともに、被災地の様子をつぶさに見てきました。紙面の表面では被災地の状況を、裏面では支援活動の様子をお知らせし、ご報告いたします。

「何もない！」 言葉失う被災地の惨状



市街地はすべて壊滅。沿岸部では引き波の巨大な圧力で鉄骨が海の方を向いて倒れ、ビルが横倒しとなり、鉄筋のビル以外は基礎を残してほとんど何も無い状態でした。去を急ピッチですすめていました。

多くの市街地は、自衛隊や民間のトラック・重機が瓦礫の撤

は声を失い、ただ津波の猛威

20メートルの津波で 家屋の7割が壊滅

3月11日の地震・津波によって女川町の戸数の7割が破壊され、1200名が死亡または行方不明、いまなお1800名が避難所生活を強いられています。

とくに、沿岸沿いの漁業の基盤は完全に壊滅し、深刻な打撃を受けています。

約20メートルの高台にある町立病院の1階まで浸水。大きな船が1キロも陸に押し流されたり、山の上に打ち上げられる様子も見ることができます。

まったく原形をとどめない町

子どもたちを含め町民 の9割近くが無事。

地震発生が昼過ぎだったために、高台にある幼稚園や小中学校の生徒は適切な避難・誘導で無事でした。失われた戸数の割に、9割近くの住民が助かったのは、比較的逃げやすい地勢にあつたことや、日頃の震災対策が徹底していたからだろうと思われます。しかし、「津波といつても大したことがないかった」という「慣れ」から、逃げ遅れたり家族のもとに行つてそのまま津波に巻き込まれた住民も数多くいたようです。

の前に立ちつくすだけでした。



女川町は「異次元」の世界に変貌



漁業の基盤は壊滅状態に



かろうじて事故を免れた女川原発

危機一髪で電源喪失 を免れた女川原発

女川は東北電力の原子力発電

宮城県女川町

女川町は池田町とほとんど同じ規模の、人口1万人、3500世帯の町です。

池田町との大きな違いは、漁業の町、原発の町であること。原発交付金、補助金などで、地方交付税なしに財政運営ができた「豊かな」町が、地震と津波によって一瞬にして崩壊してしまったのです。

代 表 矢口 稔(090-3333-4974)
事務局長 村端 浩(090-1865-7743)